

しまねの  
女と男  
ひと

第38号

特集

しまねの女性はどくらい活躍する?!

ワーク・ライフ・バランス編

目次

- ◆ 県民が考える「女性と仕事」  
～意識・実態調査から読み解く現在と未来～ ..... 2
- ◆ しまねで働く女性への応援メッセージ ..... 5
- ポケットクイズ ミニ解説 ..... 6
- リレーコラム ..... 6
- あすてらす情報キャラバン隊がゆく！ ..... 7
- 講座レポート ..... 7
- 活動報告 ..... 8

ご存じですか?! 女と男との参画関係

あすてらすポケットクイズ

毎号、特集テーマに関連した男女共同参画に関するクイズ等を出題します。  
心のポケットにしまっておきたい、ポケットからちょっと取り出して伝えたいくなる  
情報をご紹介します。ぜひチャレンジしてみてください。

仕事と育児

問題

島根県内の事業所で  
1歳6ヶ月未満の子を養育している男性のうち、  
育児休業を取得した人の割合は次のうちどれか。

- ① 約10% (10人に1人)
- ② 約 4% (100人に4人)
- ③ 約 1% (100人に1人)



※答えは6頁のミニ解説【データ編】へ

### 県民が考える「女性と仕事」

～意識・実態調査から読み解く現在と未来～

女性の活躍推進は、男女共同参画社会を形成するための柱の一つであり、様々な立場に置かれた女性たちの生き方が尊重され、あらゆる分野で自分らしく活躍することを目指しています。なかでも仕事の分野に着目すると、女性の就業促進と職場での活躍推進により、労働力不足の補填や多様な視点を取り入れることでの社会の活性化等が期待されていますが、女性がいきいきと働いて活躍するためには、ワーク・ライフ・バランスの実現が鍵となります。ワーク・ライフ・バランスとは仕事と生活を天秤にのせてバランスを取るのではなく、仕事と生活を共存させることで相乗効果を生み、豊かな人生を生きようという考え方です。

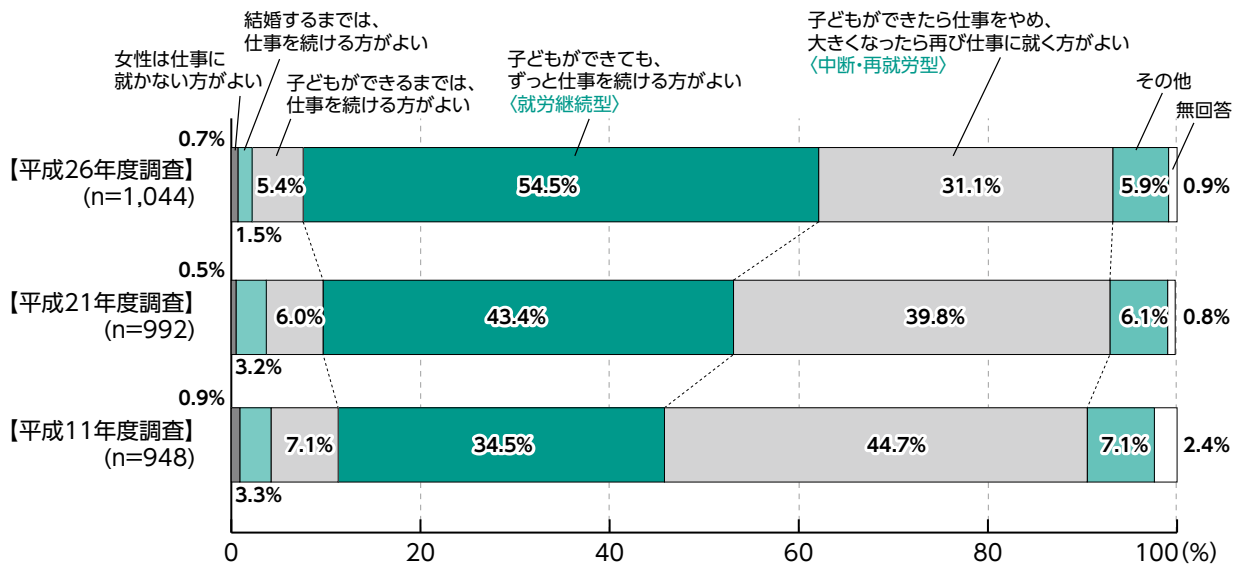
今回の特集は、最新の調査結果（「平成26年度男女共同参画に関する県民の意識・実態調査」島根県）から「女性と仕事」をテーマに島根県の現状を読み解き、しまねの女性たちが、ワーク・ライフ・バランスを実現して職場で活躍するための課題を探ります。

#### (1) 女性の就労

##### ●女性が働き続けること、どう思う？



■女性の就業パターン

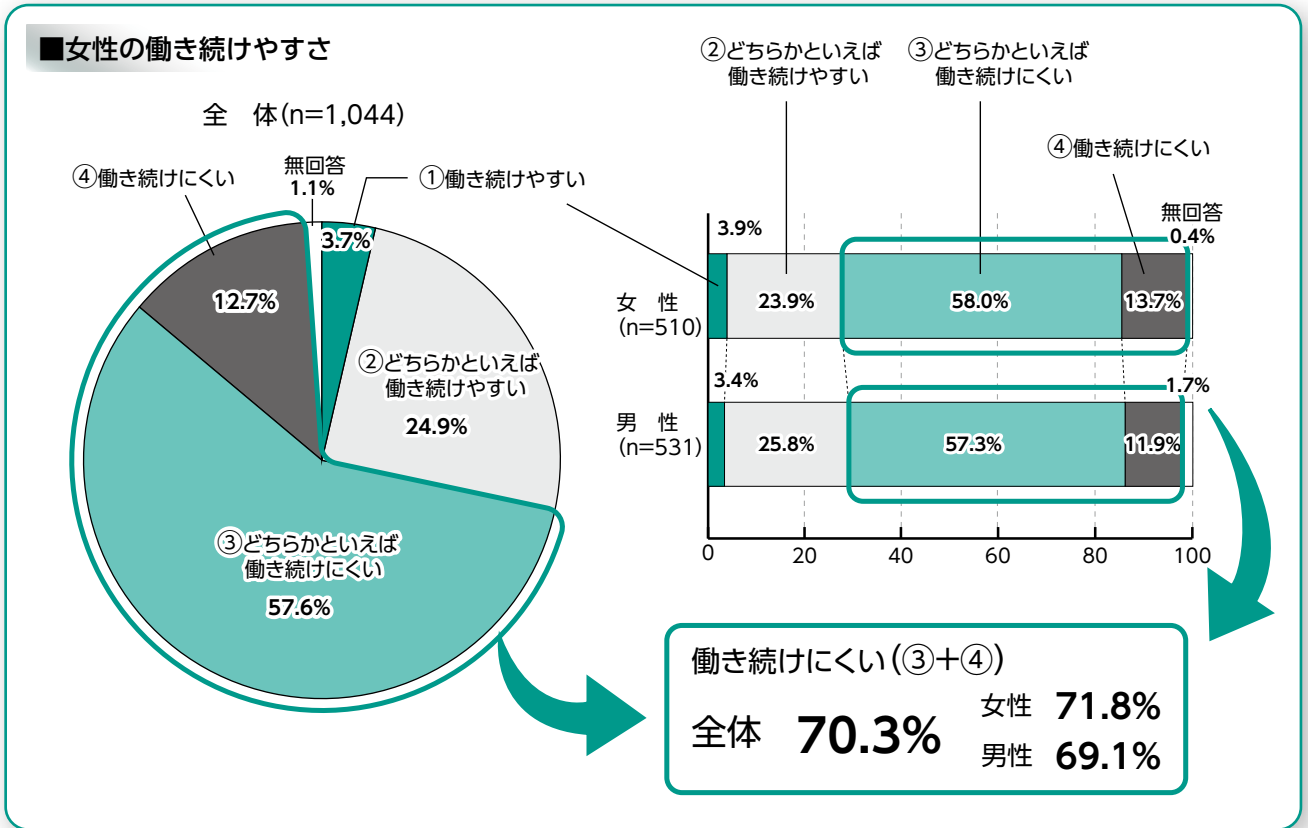


#### ポイント解説

就労継続型を支持する人の割合は調査実施ごとに毎回高まり、今回初めて5割を超え過去最高に。また、中断・再就労型を支持する人の割合は毎回低下。前回調査で初めて就労継続型の方が上回り、今回両

者の差はいっそう広がりました。過去15年間で、女性の就労に関する島根県民の意識は、就労継続をよしとする傾向に変化しており、このことは女性が職場で活躍するための追い風となっています。

●女性「働き続けやすい」？それとも「働き続けにくい」？



●女性が働き続ける上での障害は？

※女性は現在「働き続けにくい」または「どちらかといえば働き続けにくい」と回答した人に複数回答で尋ねたもの（上位5つを紹介）

- 1位 育児施設が十分でない (65.4%)
- 2位 短期契約、パートタイム、臨時雇いなど不安定な雇用形態が多い (53.1%)
- 3位 結婚・出産退職の慣行がある (50.0%)
- 4位 介護施設が十分でない (39.0%)
- 5位 長時間労働や残業がある (37.9%)



ポイント解説

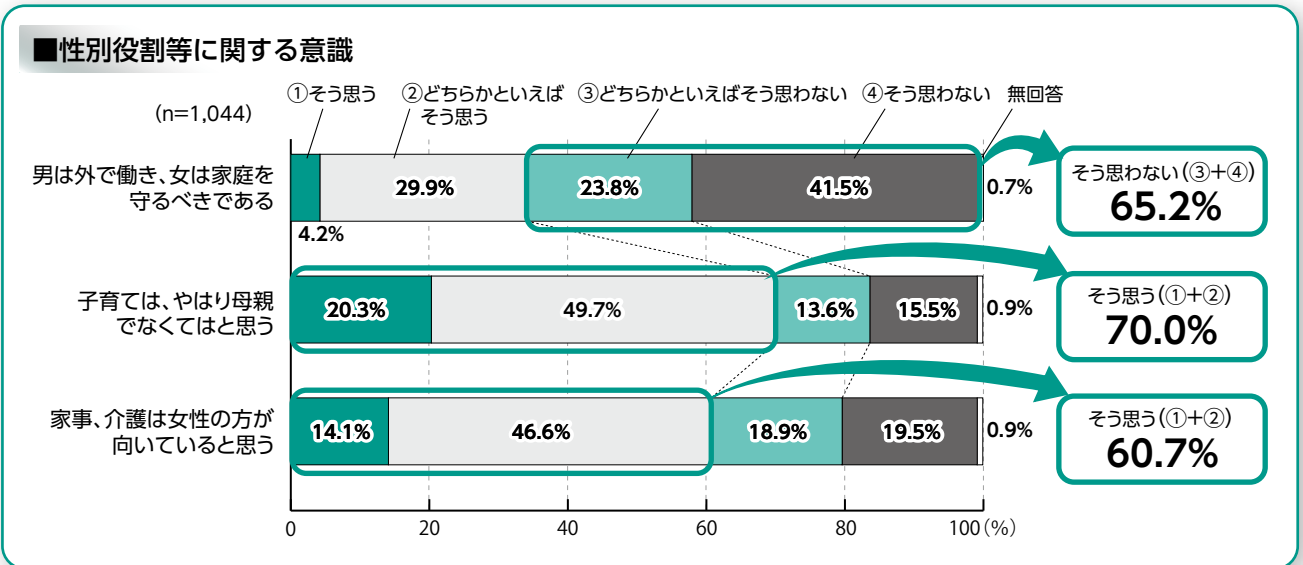
島根県では女性の就労継続に関する意識は高いものの、実際には、女性は「働き続けにくい」と感じる人が7割にのぼっています。そして、そう感じる人は、女性自身だけでなく男性も同様に多いことがわかります。その背景には様々な障害があると考えられており、施設の充実等ハード面での課題と、性別役割分担に起因する課題が上位に挙がっています。

性別役割分担とは、「男は仕事、女は家庭」に代表されるように、男性（夫）が残業を含む長時間労働

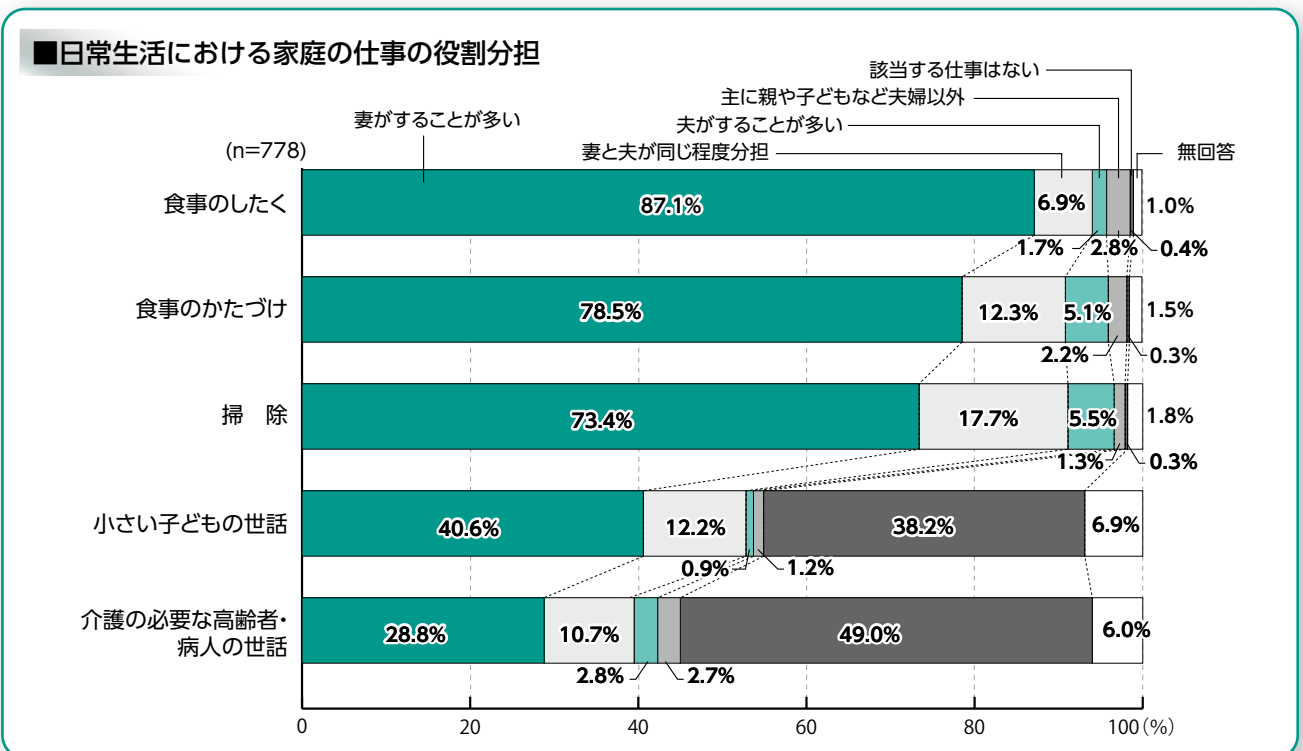
（有償労働）を担い、女性（妻）が家事、育児、介護等の家庭内労働（無償労働）を担うとして責任や役割を分担するもので、この性別役割分担を前提として「女性は結婚・出産で離職するから責任ある仕事は任せられない」「女性は補助的な働き方であり」との固定観念が、いまだに職場に存在します。このため、女性は男性よりも低賃金で不安定な雇用形態が多く、キャリア形成もしづらいなど、「働き続けにくい」とされているのでしょう。

## (2) 家庭での役割分担

### ●性別によって向き、不向きがある!?



### ●実際に家庭の仕事を担っているのは誰? ※パートナーがいる人への質問



#### ポイント解説

典型的な性別役割分担意識を示す「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」については6割が否定的ですが、より具体的に育児、家事、介護について問うと、いずれも6割以上の方が性別役割に肯定的で、矛盾する結果となっています。実際に家庭での役割分担をみても、これらの家庭内労働を女性が主

に担っていて、日常生活において性別役割分担意識が強く影響していることがわかります。この状況では女性が仕事と両立することは難しく、男性にも家庭参画を促し家庭責任を女性と分かち合うことが不可欠です。

## しまね流！女性の活躍を叶えよう

島根県では、時代や社会の変化に伴い、女性の社会参画に対する人々の意識も容認、期待する方向へと変化してきていて、女性の活躍にとってプラスとなる土壌があると言えます。しかし一方で、男性が主な稼ぎ手で、女性が家庭内労働を担うという根深い性別役割分担意識があり、女性が働きつつ子どもを産み育て、家事や介護も責任を負うことを求める現実も見えてきました。これでは女性の負担が増大してしまい、何とか家庭生活と両立せねばと心にゆとりのない状態になりがちで、仕事への意欲を持ってないでしょう。

こうした中で女性の活躍を促すためには、社会全体として「家庭内労働は女性の役割」とする固定的な性別役割分担意識を変え、同時に男性の家庭参画を推進していかなければなりません。あわせて、職場では、長時間労働を是正するなど誰も（男性も女性も）がワーク・ライフ・バランスを実現できるよう環境整備をしたり、ライフプランに沿った就業継続支援をすることが必要です。

また、女性自身も「女だから無理」とか「責任を負いたくない」という理由で活躍の機会を逃すことなく、目的や目標をもった主体的な働き方をめざすことが求められます。女性が自分らしく働き、能力を最大限に発揮できるよう、しまね女性センターは様々な事業を通して支援していきます。



## しまねで働く女性たちへの 応援メッセージ



追い風によって、今こそ挑戦を！

一般社団法人島根県経営者協会  
専務理事 森 脇 建 二

私は日本経団連の地方組織である島根県経営者協会の専務理事という立場から労働現場の状況等を皆様にお話したいと思います。

昨年（2014年）6月の「日本再興戦略」改訂版が出されたあたりをターニングポイントとして、経営者側の方から、職場での女性の活躍推進についての議論が一層活発になってきた感があります。また、ワーク・ライフ・バランスや子育ての環境整備等が盛んに言われています。

一方で、島根県においてはボトルネック（制約）として、男女の役割分業意識や、職場と家庭の分離意識、さらには隣近所や地域コミュニティへの遠慮意識等が根強く残っています。

実は、働く女性のみなさんは、これを超える知恵と勇気をもって仕事に向かうということが必要です。当然ながら会社も、みなさんと一緒に考えたり提案したりして、多様な働き方ができ、かつみなさんが働きやすい労働環境を作るように努力していきます。そういう会社でないと労働生産性が上がらず、これからは生き残っていきません。

1986年に男女雇用機会均等法ができて以来、みなさんが働くための環境整備が少しずつすすんできました。例えばパート法の改正（職務の内容や人材活用の仕組みが正社員と同一であれば、差別的取扱いが禁止される）などにみられるように、労働法制もみなさんが働きやすい方向へと向かっています。みなさんが様々なボトルネックを乗り越える挑戦をされていくことを大いに期待しています。

NEW!

働く女性&ママのための  
事業紹介

しまね女性センターでは、今年度新たに2つの女性向け事業を始めます。

※各セミナーの詳細、受講者募集についてはおってHP等でお知らせします。

### 女性の活躍推進セミナー（島根県受託事業）

様々な分野で働く女性を対象に、女性自身が「働くこと」や「生活すること」の充実を図るとともに、女性が働きやすい環境づくりを推進するための参加型の連続セミナー（全3回）です。

対 象 県内の企業・団体等で働く女性

実施時期 8～10月

場 所 松江、浜田（東西2会場）

### ママのリフレッシュ応援セミナー

子育て世代の男性が積極的に家事や育児にかかわるきっかけとして、子どもと一緒に簡単な料理を作り、その間にママは家事や育児から離れてリフレッシュする時間を過ごすことにより、固定的性別役割意識の見直しと相互に居心地よい関係づくりを図ります。

対 象 小学生の子どもと両親

実施時期 7月12日(日)

場 所 あすてらす

ポケットクイズ  
ミニ解説  
【データ編】

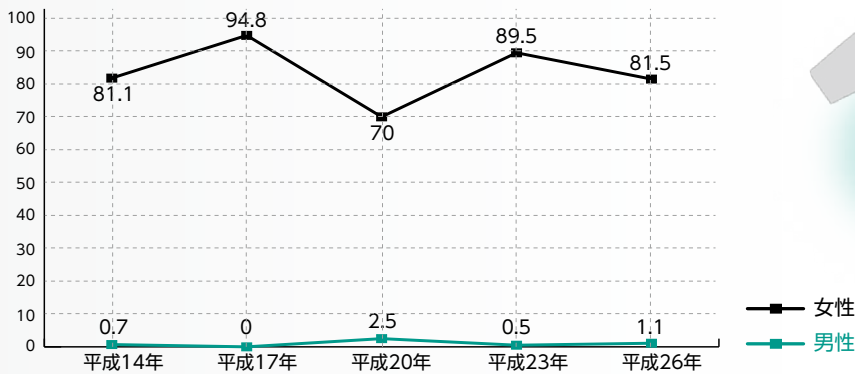
答え

③ 約1% (100人に1人)

島根県内の事業所で1歳6ヶ月未満の子を養育している男性のうち、育児休業を取得した人の割合は1.1%、一方女性の場合は81.5%です。〔平成26年度島根県労務管理実態調査〕より) 過去12年間の取得率を男女別に見ると、女性が7~9割取得しているのに比べ男性は0~2割程度の低水準にとどまり、男女差が大きく開いたまま推移しています。この傾向は、全国的に見ても同様です。

また、②の約4% (100人に4人) とは、同調査において、小学校就学前の子を養育している男性のうち、看護休暇を取得した人の割合4.3%を指しています。子どもの病気等の際に看護をするための看護休暇は、育児休業に比べて対象とする子どもの年齢の幅が広がり、取得期間も1~2日程度で済むケースが多いので育児休業よりも制度を利用しやすいためか、若干数値が高くなっていますが、いずれにせよ女性の方の負担が大きく、働く男性の育児参画はなかなか進んでいないことがうかがえます。

育児休業取得率の推移



※[島根県労務管理実態調査]より作成

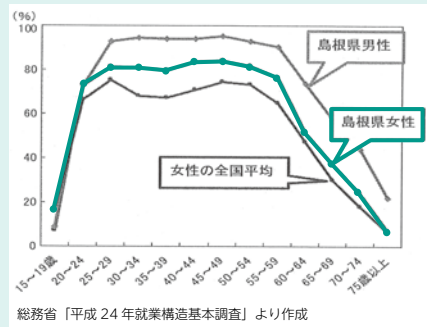
リレーコラム vol.7

M字の底は上がったけれど...

今号の特集は、女性の主に職業分野での活躍のための課題を、調査結果から考えるものでしたが、このテーマと切っても切れない「M字カーブ」という言葉を、皆さんはご存じですか。女性の労働力率を年齢階級別にグラフ化すると、結婚・出産期に当たる年代でいったん低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するというM字型を描くことで、日本の女性の働き方の特徴だと言われています。多くの女性が結婚・出産で仕事を辞める選択をしない欧米諸国では、この労働力率の曲線は男性と同様台形または逆U字型を描くのですが、日本では女性のM字のいわゆる底の部分となる労働力率(ひいては就業率)の落ち込み分が、国の経済成長にとって非常に損だという指摘が最近強まっていて、このことが職業分野における「女性の活躍推進」の追い風になっているとも言えます。

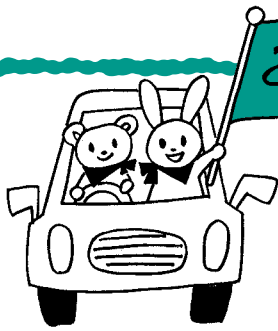
ところで、この労働力率の曲線、島根県の女性に限って言えば、既にM字型とは呼べないくらいに底に当たる部分(結婚・出産期)の数値が上がってほとんど台形に近くなっています。特集記事で紹介したように、女性は就業継続した方がよいという意識の高さが実態としても反映されていますよね。このように、数値だけ見ると男女平等先進国の欧米型に

近い女性の労働力率の高さを誇る島根県ですが、「家事・育児・介護は女性」という意識の高さや、家庭での性別役割分担の実態を見ると、女性の就業率の高さが単純に男女平等に結びついていないことがわかります。女性は外でも一生懸命働いているのに家庭の仕事の責任はやっぱり女性とか、女性には家庭責任があるから外での仕事は男性の補助程度、男性労働者で足りない時の調整弁くらいにしか考えられていないとしたら、女性の職場への活躍推進も意味がありません。女性の



職場参画は、男女共同参画の考えを大前提に、男性の家庭参画とセットで進めることが大切ですね。

(公財)しまね女性センター 事業課副課長  
小川 洋子



あすてらす

# 情報キャラバン隊がゆく!

## この春スタート!あすてらすを、もっと身近に♪

地域みなさんに男女共同参画を気軽に楽しく知ってもらいたい!  
そんな想いから、あすてらすで所有する絵本やかた、啓発パネルなどを使ったワークショップを地域にお届けする事業がスタートしました。

### Q どこに来てくれるの?

**A** 対象は、島根県内の学校、図書館、公民館、企業などです。  
今年度は10件程度の訪問を予定しています。

### Q どんなことをするの?

**A** 次の3つのパターンから希望するものをえらんでいただきます。いずれも、しまね女性センターの職員による、誰もが楽しめるワークショップ(参加型学習)です。※実施にかかる費用等は負担します。

情報ライブラリーも、一緒にお届け!



ご要望に応じて情報ライブラリー所有の本やDVDを専門の職員が選定(〜30冊程度)し、パッケージ化したものを、キャラバンにあわせて貸し出します。

★ 絵本の読み聞かせ&クイズ★



★ 啓発パネルでジェンダーチェック★



★ 男女共同参画かるた大会★



ご依頼&お問い合わせ / しまね女性センター事業課 (Tel.0854-84-5514)

## 講座レポート

【サポーター養成・支援事業】男女共同参画交流会

### 「元気に楽しく活動するための笑いヨガ ~笑顔で男女共同参画を伝えよう!」

とき:平成27年3月10日(火)10:00~14:30 主催:島根県、(公財)しまね女性センター

よねはらひろみ  
講師:米原宏美さん  
(ラフターヨガティーチャー)



男女共同参画サポーターと市町村の男女共同参画担当職員のみなさんが、市町村の枠を超え、リラックスした雰囲気の中で楽しく交流することで、課題の発見やサポーター活動の活性化をめざす交流会を開催しました。

今回のメイン「笑いヨガ」は、「ただ笑うだけ」で多くの酸素を体に取り入れて心身ともにスッキリ元気になるエクササイズで、健康長寿、ストレス解消、よりよい人間関係づくり等様々な効用があります。この笑いヨガは、男女共同参画に直接関係はありませんが、堅苦しく敬遠されがちな男女共同参画関連の事業を行う際に、導入のアイスブレイクのな場面で利用したり、交流の一つの手段として活用してもらおうとの意図で企画したものです。初めて体験する方がほとんどでしたが、いきなり大口を空けて笑い合う動作に戸惑い

や恥ずかしさが見られたのは最初だけ。あっという間に笑いの渦が生まれ、大盛り上がりの会場は笑顔で溢れていました。

笑いヨガを通じてすっかり打ち解けた交流会の後半では、悩みや課題を共有しあう語り合いのワークと、啓発活動の紹介報告も行い、楽しく交流する中で今後の活動への意欲が高まる一日となりました。



#### 参加者の感想 (抜粋)

- ◆心のモヤモヤが吹き飛びました!大きな声で笑って新しいスタートが切れそうです。
- ◆知らない人でも目を合わせて笑うだけで、仲良くなったような気がする。
- ◆ただひたすら“笑う”。こんな経験初めてです。地元での集いにぜひ“笑いの渦”を広めたい。

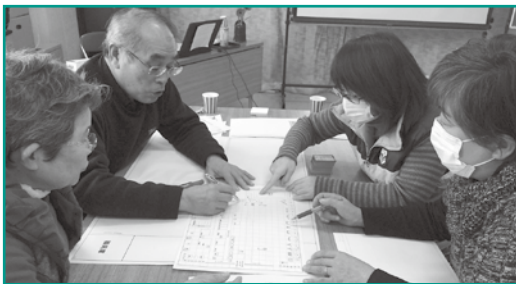
▲手遊び歌で大笑い!



## 男女共同参画の視点で、 防災をもっと身近に

昨年12月から今年の1月にかけて、雲南市の主催で「HUGゲーム指導者養成講座（女性の視点を防災に活かす）」（全3回）が開催されました。私は、この事業に男女共同参画サポーターとして関わりたいという想いと、防災に関しては以前から関心があり、特に東日本大震災後、もし身近なところで災害に見舞われたらどうすればいいのかという想いが強かったため、受講することにしました。講座では避難所で起こることとして、炊き出しや救護は女性、力仕事やリーダーは男性という男女の役割の固定化や、女性と子どもが被害者となる性的犯罪の事実、また誰がいつ被災者になるかわからないということを知り、男女共同参画の視点をもった防災学習の実施が大切だということを感じました。

この連続講座に続き、2月に開催された飯石地区の住民向けHUG体験学習で、私はカードの読み手として1つのグループを担当しました。当日の参加者数は約100人！会場は人がひしめき合いグループ数も多かったため、カードをはっきりと読み上げないと声が聞き取ってもらえず、とても苦労しました。それから、HUGがゲームで終わらないように、プレイヤー（住民のみなさん）には、カードの1枚1枚が実際に起こりうることだという緊迫感を持っていただき、そのような状況下での判断や、自身の役割について意識してもらいたいと思っ



プレイヤーとしてHUGを体験する村上さん(写真右から2人目)

### 避難所運営ゲーム

#### 『避難所HUG』

カードに避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書いてあり、避難者への配慮をしながら部屋割りを考え、炊き出し場や仮設トイレの場所をどうするかなど避難所の運営を学ぶ。

【制作：静岡県危機管理部危機情報課】

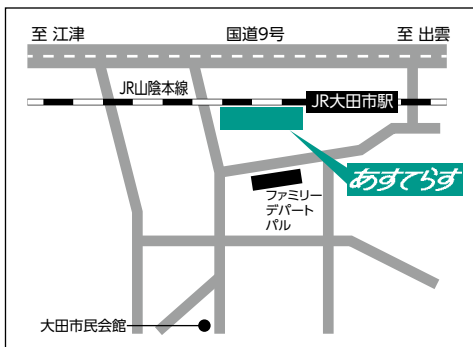


ていましたが、経験不足でそこまでの余裕がなく、プレイヤーとの関わり方がとても難しかったです。

この体験学習には、安来市から男女共同参画サポーターを中心とするメンバーが運営に協力されていて、私のグループには先輩サポーターの安部山康夫さんが入られました。サポーターとして、またHUGの読み手としても経験豊富な安部山さんが、隣で優しく声をかけてくださったことに、まずとても安心感を覚えました。また、カードを読むスピードについて「プレイヤーが1枚のカードについてじっくり考え込んでしまわないように、もっと速く！」というアドバイスをいただき、読み手は常にプレイヤーの意見を引き出していく役目であり、結論を出さないようにと教えていただきました。他市のサポーターさんと1つの事業を通して学び合うことはこれまでありませんでしたが、とても良い経験となり、私の今後の活動にたくさんのやる気とヒントをいただきました。情報交換、共有することで、互いに高め合うことができたようにも思います。

これからは、一人ひとりが防災の主体であり続け、地域での女性の防災リーダーを増やしていくことも大切なのでと考えます。女性の視点を活かした防災の取組についてももっと発展させていくべきです。そのためには、防災をもっと身近なものと考え、防災を切り口に男女共同参画について考えてもらう機会を作っていければと思います。サポーターとして自分の想いをしっかり持ち、ぶれることなく、みなさんと一緒に学び合い「気づいて築く雲南市」をつくる活動がしたいと考えています。

島根県男女共同参画サポーター（雲南市）  
村上 明子（むらかみ あきこ）



島根県立男女共同参画センター

# あすてらす

〒694-0064 大田市大田町大田イ236-4 (JR大田市駅西隣)  
TEL 0854-84-5500 (代) FAX 0854-84-5589  
ホームページアドレス <http://www.asuterasu-shimane.or.jp/>

#### 利用のご案内

(( 誰でも気軽に利用できます! ))

- 開館時間／9:00～19:00(貸出し施設については21:00まで)
- 休館日／毎週月曜日・国民の祝日、年末年始(12月29日～1月3日)